肩甲舌骨筋下腹の稀なる重複例

九州歯科大学解剖学教室(指導: 中山種秋教授)

九州歯科大学口腔解剖学教室(指導: 山田 博教授)

村上守良・六反田篤・菊池直人

(昭和46年5月24日受理)

A RARE CASE OF ABNORMITY IN THE LOWER BELLY OF THE
OMOHYOID MUSCLE

By

Moriyoshi MURAKAMI, Atushi ROKUTANDA and Naoto KIKUCHI

Department of Anatomy (Director: Prof. Taneaki NAKAYAMA)

Department of Oral Anatomy (Director: Prof. Hiroshi YAMADA)

Kyushu Dental College, Kitakyushu, Japan

During the dissection practice for students in 1970, the following variation connecting with the muscle on the anterior neck was encountered.

The present case shows an extra variation-muscle in the Omohyoid muscle on the left side. It arises from the superior border of scapula and the superior transverse scapular ligament and goes forward and inward to be inserted anterior one-thirds on the 1st rib.

This muscle would be one of the rarest variation which had especially two belly of the omohyoid muscle.

I 緒 言

前頸部における筋の異常は特に多く、その破格の報告例も今日まで数多く見られる。著者らは昭和44年度の解剖実習において肩甲骨と第1肋骨に付着する異常筋の一例を見出したのでその観察所見を報告する。

II 剖 査 所 見

屍体番号 198, 昭和38年5月に収容された69才の男性で死因は不明である。異常筋は左側の肩甲舌骨筋下腹と鎖骨下筋との間にあって固有の肩甲舌骨筋下腹の起始部外側縁に接し、起始部の巾1.5cmをもって上肩甲横靱帯および肩甲骨上縁より起始している。

起始腱は不明瞭でほとんど筋質をもって起り起始後筋巾を漸次減少しながら腕神経叢および鎖骨下動静脈の上面を斜めに後外側より前内側方にこれと交叉して走り第1肋骨の胸骨端部に達し、長さ1.6cm、巾0.6cmの停止腱に移行し、鎖骨下筋が起始する外側部で第1胸肋関節より5.5cm外側の第1肋骨の上面に停止する長三角形の

筋である。筋の全長は8.4cm、最大筋巾は起始部であって1.5cmである。支配神経は追及が不完全であるため不明である。

III 考 察

舌骨下筋群の一つである肩甲舌骨筋においてもその異常例の報告は甚だ多くおよそ次のごとく大別されている。すなわち

1. 全部または一部が欠如するもの。
2. 筋の全部あるいは上腹のみが重複するもの。
3. 下腹が鎖骨より起始するもの(鎖骨舌骨筋 M. cleidohyoideus)
4. 鎖骨より起る副筋束があってこの筋に合するもの。(下腹の重複)。
5. 上腹が胸骨舌骨筋と癒着するもの。
6. 副肩甲舌骨筋。
7. 中間腱を欠ぐもの。

などであるが著者らの遭遇した異常例はその支配神経の追及が不完全であるため鎖骨下筋の破格である後鎖骨下

筋 M. subclavius posterior であるか否かは断定できないが鎖骨下筋はその発育も良好で特に異常が認められないことから肩甲舌骨筋の下腹の重複例ではないかと考えられる。しかも該異常筋はその出現状況から見て佐藤 (1963・4)^{1,2)} の報告にみるごとき非常にまれな肩甲舌骨筋下腹の重複例であろうと思われる。その他の頸部の筋には特に異常は認められない。

IV 結 語

昭和44年度の解剖実習において肩甲舌骨筋下腹の異常一例に遭遇した。すなわち左側の上肩甲横靱帯および肩甲骨上縁より起始し左第1肋骨の胸骨端 $\frac{1}{8}$ 部に停止する細長い三角形の独立した異常筋で佐藤の報告した肩甲舌骨筋下腹の非常にまれな重複例に相当するものと考えられる。

稿を終るに当り御校閲を戴いた恩師中山種秋教授ならびに山田博教授に深謝する。

V 文 献

1. 佐藤泰司；肩甲舌骨筋下腹の重複例：解誌，38 (1)，51—52，(1963)。
2. 佐藤泰司，大田善郎；肩甲舌骨筋の破格数例：日大医誌，23 (12)，771，(1964)。
3. 柄内 巖，青沼毅郎；鎖骨舌骨筋 (M. cleidohyoideus) の1例と肩甲舌骨筋 (M. omohyoideus) の1異常例について：岩手医学誌，7 (1・2)，1—8，(1944)。
4. 柄内 巖，加藤治良，伴 友次，確水 昌；肩甲舌骨筋の異常および鎖骨舌骨筋の各1例追加：岩手医誌，7，1—2，(1944)。
5. 高野武久，高屋陸奥男，飯塚 憲，斗ヶ沢照雄，安達英明；舌骨下筋の異常に関する統計的観察：岩手医大解剖学教室業績集，2，113—121，(1955)。
6. 千葉郁樹，小川隆司，小野寺浩子，利部輝雄，西条徹，斎藤文彦，斎藤ましろ；胸骨舌骨筋および肩甲舌骨筋の異常各1例について：岩手医大解剖学教室業績集，5，87—92，(1958)。
7. 山田 博，空閑平治，小住啓一；肩甲舌骨筋および胸骨甲状筋の異常例について：九州歯会誌，14 (2)，70—74，(1960)。
8. 山田 博，西島 彪；肩甲舌骨筋の稀なる破格1例について：九州歯会誌，11 (2)，1—2，(1957)。